

2 生活に関すること

17 コミュニケーションに課題があるQさん

Qさんは、友達とのやり取りの中で、相手の話を聞くことができず、一方的に自分の話をしてしまうため、友達関係を築きにくい状況です。また、納得できないことがあると、相手に強い口調で注意し、トラブルになることがあります。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎思ったことをそのまま話すため
- ◎相手の気持ちを推測するのが難しいため
- ◎自分の行動が相手にどう思われるのかがわからないため
- ◎感情のコントロールがうまくいかないため

1 自己理解を進める <①-1-1>

- 自分の言動を振り返ることができるよう、同様の状況設定のある動画などを見て、自己を客観視することができるようにする。
- 自分の得意なことや苦手なことについて自己理解を進める。

<客観的に自分を知る>

自分について書く。(得意不得意等)

- ・わたしは〇〇が得意です。
- ・私の好きな物は〇〇です。
- ・私は〇〇のとき、〇〇することがあります。

得意なことや苦手なこと、行動面についてなど、自分のことをできるだけ客観的に書くようにします。

場面①

場面

友達の言っていることが納得できず、一方的に自分の意見を話しています。



この行動をどう思いますか。

友達はどう思っているのでしょうか。

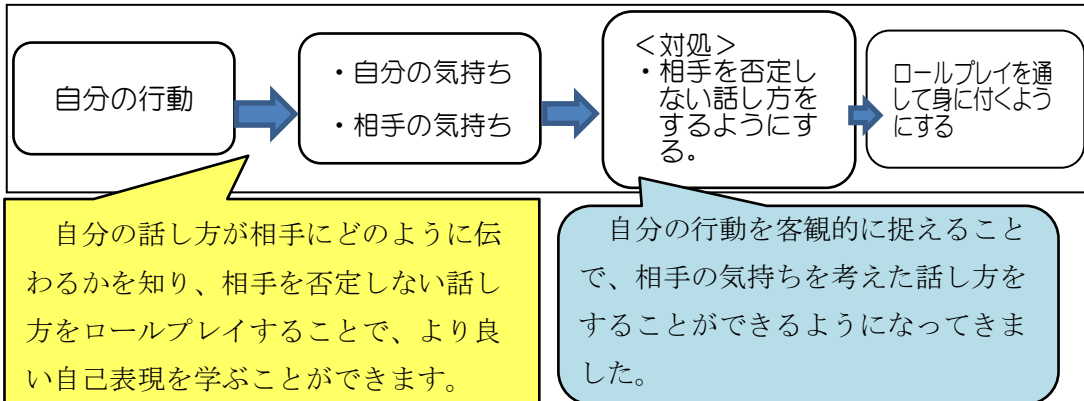
実際の出来事をもとにすることで、自分のこととして捉えることができ、自分の課題に気づくことにつながりました。

合理的配慮・具体的な支援(例)

2 体験的な学習を通し、相手の気持ちを考えたやり取りをできるようにする

〈①-2-2〉

- 具体的な場面について様々な状況を設定し、「こんなとき相手はどう感じるか」「どうすればよいか」を考えるようにする。
- ソーシャルスキルトレーニングやロールプレイング等の体験的な学習の中で、相手の気持ちを考えた言い方ができるようにする。



3 周囲の理解の促進を図る 〈②-2〉

- トラブルがあったときには、本人なりの理由を周囲に伝え、理解を求める。
- 本人が感じている苦手さについて周囲の理解を進める。



- ・言われないとわからないことがあるので、ルールや約束事は説明してください。
- ・とっさに言動に出てしまいます。少し時間をおけば落ち着いて考えられるようになります。

本人や保護者の合意の上で、苦手なことを周囲に伝えたことで、障害特性への理解が進み、お互いに認め合う雰囲気が出てきました。

4 気持ちを切り替えるための方法を考え、実行できるようにする

〈①-1-1〉

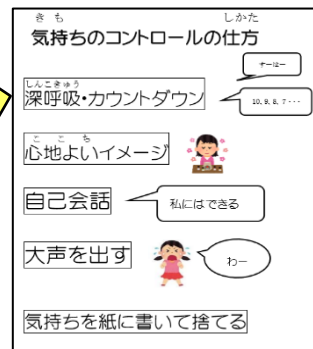
- 気持ちを抑える、切り替える方法を提示し、生徒と一緒に考える。
- 本人にとって一番良い方法を自分で考えるようにする。

「まあいいか。」「大丈夫。」など、気持ちを切り替えるときの合言葉を唱えるようにすると落ち着くことができるようになりました。

ま、いっか

大丈夫!

気持ちを切り替える方法について、自分に一番合った方法を考えるようになります。



18 コミュニケーションに課題があるRさん

Rさんは、友達との会話がうまくいかず、学校生活では一人で過ごすことが多くなっています。友達との会話に入ろうとしても、相手の話を受けて、共感したり質問したりすることができず、うまくいかない状況です。仲良くなろうと近づきすぎて敬遠されてしまいます。仲間関係を築けないことでの不安感や自己肯定感の低下もみられます。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎会話の基礎的なスキルの獲得ができていないため
- ◎自分の気持ちを相手に適切に伝えることが難しいため
- ◎他者からの働きかけを適切に受け止められない、また、意図を正しく理解することが難しいため

1 コミュニケーションやマナーについて学ぶ機会を設ける

〈①-1-2〉

- 休み時間等に個別に時間を設け、友達とうまく接することができない時の様子を振り返り、良い方法を考えるようにする。

合理的配慮・具体的な支援(例)



〈行動振り返りシート〉

- ・友達との距離はどうだったか。
- ・話題は何だったか。(話せる範囲でよい。)
- ・相手の表情はどうだったか。
- ・その話題は友達にとって楽しい話題だったか。
- ・気持ちを相手に押しつけていないか。

2 ソーシャルスキルトレーニングを通して会話の基礎的なスキルを学ぶ

〈①-2-2〉

- 話題の選び方について学ぶようにする。
- いつ、どこで、誰が、何をしたというように、順序立てた、人に伝わる話し方について確認する。
- 相手の意見を聞くときや話題を変えるときなどのやり取りの仕方について視覚的に示し、ロールプレイする。

〈話題〉

- 休みの日にやったこと
- テレビ番組のこと
- 好きなアイドルのこと
- 最近の悩みについて
- 進路のこと など

自分の話したい内容と、友達に興味をもちそうな内容を考えるようにします。

自分から話題を持ち掛け、会話ができるようになってきました。

〈話す手順〉

- ① 話題を選び、相手に尋ねる。
- ② 相手の話を聞きながら、相づちを打ったり、共感したりする。
- ③ 相手に質問をする。
- ④ 同じような経験について話し合う。



そうなんだ。

それからどうしたの？

3 学級の雰囲気づくり、居場所づくりをする 〈②-2〉

- 困ったときに相談できる人や場所を確保する。
- 周囲の生徒や教職員が障害について理解し、対応等について共通理解を図る。
- 失敗や間違いを許容することができる、共感や他者理解の気持ちを育て、互いに認め合える学級の雰囲気をつくる。



生徒が自己肯定感を高められるよう、失敗や苦手さを責めずに認める学級の雰囲気をつくるようにすることが大切です。それには、教師が日頃の生徒の様子を見取り、「失敗は誰にでもある。」「失敗しても大丈夫。」といったことを伝えるようにすることが大切です。

19 スケジュール管理が苦手なSさん

Sさんは明るく真面目な性格ですが、提出物の期限を守れなかったり、学年や学校行事での係の仕事をおぼえてしまったりすることがあります。教師や友達から週予定や月間予定について、また係分担などの確認等、話しかけられても十分に理解できず、同じミスを繰り返してしまいます。どう配慮していけば良いでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

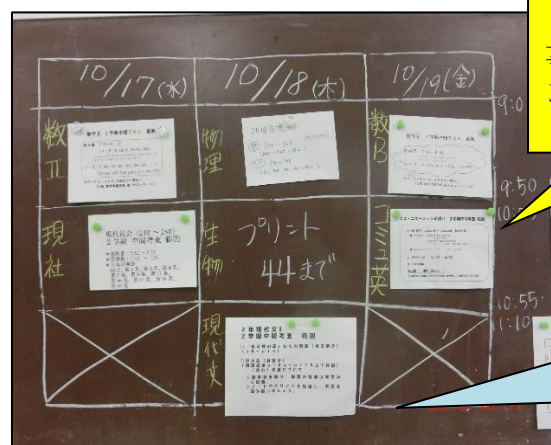
- ◎自分に必要な情報を整理したり優先順位を付けたりすることが難しいため
- ◎把握しておくべき予定を、自分の都合と合わせたり調整したりすることが苦手なため
- ◎言葉（音声）による指示では複雑な内容の理解が難しく、覚えていることが苦手なため

1 週や月の予定を提示して、行事等を確認できるようにする

〈①-2-1〉

- ホワイトボード等に1週間の予定を書き、流れや行事を確認できるようにする。
- 1か月の予定表を掲示して、月の予定を把握できるようにする。また、予定が変わったら変更点がわかるように付け加えるなどの工夫をする。

合理的配慮・具体的な支援(例)



テストの予定と、注意事項などが書かれたプリントを掲示しています。

テストの順番や、ポイントを自分で確認することができました。

2 週や月の予定を個人用に携帯できるようにし、常に予定の確認ができるようにする <①-2-1>

- メモ帳や手帳、携帯電話のスケジュール機能などの活用で、1週間または1か月の予定を携帯・把握し、いつでもどこでもスケジュールを確認できるようにする。

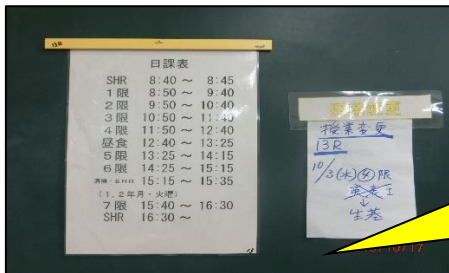


手帳に1か月の予定を記入することで、ひと目で予定を把握することができます。必要な時にメモをし、活用できるようにすることも大切です。

また、携帯電話（スマートフォン）のスケジュール機能やリマインダー機能の活用も有効です。

3 大事な事柄は紙面で伝える <①-2-1>

- 提出物の期限や期日が決まっている係の仕事など、連絡事項は口頭説明と共に、黒板や紙面に書いて視覚的にわかるように伝える。また、変更があったらその部分がわかるよう、消さずに色を変えて付け加えるなどの工夫をする。

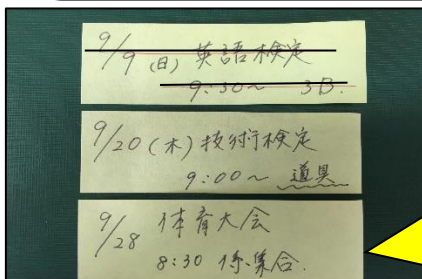


授業変更があった場合、何が変わる変更になったのかをわかるように記入します。

口頭説明とともに、視覚的に紙面で提示することでわかりやすくなります。

4 メモを取る <①-1-1>

- 自分にとって必要な事柄は、耳からだけでなく目からの情報があるとより覚えられという自己認識を育て、聞き流さずにメモを取るように促す。
- メモをした付箋紙を優先順に並べ、終わったら線で消したりはがしたりするなど、活用の仕方を助言する。



自分に必要な情報を耳で聞くだけではなく、メモを取ることも効果的であることを伝えます。生活をより良くするための工夫ができることも必要です。

付箋紙を優先順に並べ、終わったものから線で消していきます。